

東日本大震災 2年半後の今を語る

特集にあたって

東日本大震災から2年半が経過しようとしている。今、被災地はどうなっているか、どのような問題を抱え、今後どうなるのか。今回、世間の関心が薄れかけてきた東北の今を再確認し、今後のOTの支援のあり方を考えていただければと思い、5名の執筆者にそれぞれの立場でのご報告をいただいた。

香山氏の詳細な総論に続き、高梨氏には甚大な被害を受けた陸前高田の高齢者の実情をさまざまな数字と作業療法的な視点から報告いただき、今後の未来への取り組みまで紹介いただいた。現地が高梨氏の故郷だけに心に響くものがある。

三浦氏には12名ものPT・OTが保健福祉事務所に配属されている宮城県の行政OTとして報告いただき、今後の地域行政、災害支援行政にOTがどのように関わるべきかを示唆していただいた。

清山氏には地震・津波の被害に加え、原発事故の影響を受け苦しんでいる福島の問題を浮き彫りにしていただき、被害者を取り巻く心の問題に悪戦苦闘しながら取り組んでいる状況を伝えていただいた。

水越氏には9年前の中越、中越沖地震の様子を振り返り、これまでの経過をご報告いただいた。9年間という時間の経過から今回の東日本大震災後の今後が少し見えるような報告だと思う。2年半後のこの時期に立ち、今後を考える際に非常に参考になる内容であった。

正直なところ、今回は「まだまだ現状報告しかできないかもしれない」と思い、「今を語る」というテーマで執筆依頼をしたが、「今後の未来」について皆さん言及されていたことはとてもうれしいかぎりである。多くの方々にご一読いただき、関心をもっていただければ幸いである。

(長谷川敬一)

企画担当

長谷川 敬一 (竹田綜合病院, 作業療法士)

香山 明美 (宮城県立精神医療センター, 作業療法士)

澤 俊二 (藤田保健衛生大学, 作業療法士)